

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193800117		
法人名	株式会社 アルムシステム		
事業所名	グループホーム 静内さくら館2		
所在地	日高郡新ひだか町静内駒場5番40号		
自己評価作成日	令和 4 年 10 月 20 日	評価結果市町村受理日	令和 5 年 3 月 8 日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action kouhyou detail 022 kani=true&JigyosyoCd=0193800117-00&ServiceCd=320
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

太平洋を望む立地に建てられており、太陽が海に沈む景色がとても綺麗で、鮮やかな夕焼けが太平洋に沈み込むように日が暮れていきます。建物横にはビニールハウス、前庭には花壇と野菜畑があり、土いじりの好きな方は花を植えたり、水やりや手入れに勤しみ、収穫を楽しんでいます。

季節に応じて行楽を楽しんだり、温泉に行くなど全員で外出する機会を設けています。毎日、体操やレクリエーションを行い体を動かし、天気の良い日は外に散歩に行ったり、地域の産業の一つである競走馬育成牧場が多く、牧歌的な風景の中を車でドライブなども支援しております。

また、ホーム居室は各室にトイレと洗面所が配置されプライバシーに配慮され、ご自分のペースで過ごせるようになっています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103
訪問調査日	令和4年11月21日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目: 28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は掲示されており、朝の申し送り時には全員で唱和している。その為1日の始まりから理念を意識した取り組みとなっている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	自治会の活動に職員が参加している。資源ゴミの分別などは利用者様も手伝う。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町が推進している認知症カフェを開催し、認知症の講話や予防体操、ゲーム、介護相談を受けていましたが、コロナ禍の状態が続いているため、現在は行われていません。家族には、毎月利用者様の状況などを手紙で知らせています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、会議ではなく2ヶ月に1度、文章を郵送し報告している。生活状況の報告、事故やヒヤリハット等を、地域包括支援センター、自治会長、家族様へ報告し意見要望などを郵送にて返信して頂く。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナの感染情報を得たり、こちらからは空き情報や入居退去の報告をしている。日頃から助言を求めるなど関係は密である。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を2ヶ月に1度開催している。毎月の職員会議でも繰り返し内部研修を行い、身体拘束をしないケアを徹底している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修時に身体拘束と共に、虐待防止についても研修している。職員が感情的になりかけたら、すぐに他の職員と入れ替わるよう指導され、守られている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様の財産を管理して頂くため、成年後見制度を利用し、社会福祉協議会がご本人様との面談、話し合いをし、管理者が立ち会いご本人様と一緒に裁判所への申立をし、補助人が選任された。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約説明の際には、グループホームの趣旨をご理解頂くよう努め、ご本人様、ご家族様の疑問、要望に対し説明しご理解を頂き、納得して頂いてから契約を交わしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の要望等は、個々に合った落ち着いた時間帯に意見を聞いたり、ご家族様は面会時などで意見や要望を聞き、安定した生活が出来るよう努めています。苦情相談窓口を明確にし、提示しています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや朝礼に加えて常時、職員の意見や提案に耳を傾け、実現できるよう一緒に考え、反映できるよう努めています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は定期的に来訪し、現場の状況や各職員の勤務状態の把握に努め、年1回、職員の個人面談を行い、仕事のやりにくさ、意見や要望等を聞き取り、各自が向上心を持って働けるよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社が行う研修会は、コロナウイルス予防の為、最小限の人数で開催し、参加していない施設分の資料をもらい、各ユニットごとに研修を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行政のケア会議や研修会が、コロナウイルス予防の為、文章での観覧等で行われており、サービスの質を向上させていけるように努めています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居後の生活をイメージできるよう、ホームの1日の流れの説明や、居室の場所などを案内する。ご本人様やご家族様から、不安な事、希望などをしっかりと聞く事で安心して頂ける関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談で、ご家族様の要望等をお聞きした上で、可能な事、要望に沿えない事を誠意を持って伝え、信頼に繋げています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	伺った情報や提供された情報を元に、ご本人様が1番必要としている事を見極め、支援を行っています。他のサービス利用が良いケースは、地域包括支援センターへつなげています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物干しやたたみ、台所作業、配膳準備など出来る事、やりたい事を役割を持ってして頂いております。職員を手伝ってくれる事もあり、助けられています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員の一方的な思いで支援をするのではなく、何か変化があった時には、都度ご家族様に相談し、意見を踏まえて、協力を得ながら支援をしていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人に電話をしたり、馴染みの店へ電話で注文されたりなど、関係が継続出来るように支援をしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同で作業をしたり、一緒にレクリエーションや歌の会を楽しむことで、利用者同士の話題作り、関わり合いをもてる支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても「何かありましたら、相談、支援などに努めますので、ご連絡下さい」と伝えていきます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様一人ひとりの思いを実現できるように、ケアプランを通して、全職員が共有し把握するよう努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様、これまでのサービス担当者から生活歴や趣味や好みなどを伺い、ご家族様の面会時にも聞き取りを行うなど、これまでの生活の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態変化を観察し、記録に残し、利用者様と積極的に対話し、日常のリズムや能力を発揮できるように全職員が心掛けている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング表は、各担当者が達成出来ているか、日々の状況を記入します。ご本人様の要望など、日常の関わりの中で気づいた事などもカンファレンスで意見、提案などを全職員でし、介護計画を作成しご家族様には同意を得ています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録に対応した出来事を詳細に記録し、利用者様のお話しなども記載して職員同士が共有し、介護計画の見直しに役立てています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍で買い物や、家族との外出が難しい状態です。病院受診時は、職員が付き添い同行を行っています。お祭りの山車が施設前にきて外で見たり、散歩に行かれたり、畑に行く方もいます。その都度柔軟に対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	長引くコロナ禍の為、行事等で地域のボランティア活動をしている方達もよぶことが出来ず、職員が踊り、歌を歌うなど利用者様と一緒に楽しみました。ご家族様とも、お会い出来ない日が続いていますが、窓越しの対面や情報を元に柔軟に対応しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に協力医の説明を行い、今までのかかりつけ医を継続するかを選択してもらっています。ほとんどの利用者様は協力医に変更し、月1回の往診があります。希望や必要に応じて歯科往診を受けています。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段の状態を把握し、週に1回バイタル、体調の変化に気付いた事も記録に残し報告を行う。看護師に相談し対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は職員が必ず付き添い情報提供を行う。ご家族様と一緒に、主治医や看護師からの病状説明などを聞いて頂く。ご家族様が来れない場合は医師から直接連絡をして頂く。早期に退院できるように、利用者様の状態などを連絡し確認している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居中に重度化しつつある段階でも、今後の事をご家族様に説明し話し合い、ご本人様、ご家族様の意向を確認し同意書を交わしホームで出来る支援を説明しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備えて、全ての職員が対応出来るよう、定期的に普通救命講習を受け、訓練をして実践力を身に付けています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災想定避難訓練を、昼間、夜間想定で年2回消防士が立会い実施しています。歩けない方は、担架を使用しています。自治会長には訓練をする事は伝えていますが、コロナ禍の為、参加はしていません。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの利用者様に合った配慮を心掛け、人格を尊重し言葉かけ、接し方に常に気を付け、他者様とのトラブルにならないよう、支援しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の判断ではなく、ご本人様に意思確認をし判断してもらっている。欲しい物があれば職員が買い、ご本人様に渡す。入浴についても意思確認を行い、ご本人様の判断で入ってもらっています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々に合わせた起床時間や、食事の好み等できる限り対応しています。利用者様のペースを大切に、1日1日過ごしやすく出来るよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択や、季節にあった衣類の交換などを一緒に行っています。床屋は頼んで来て頂いています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べやすい大きさや、彩りなども考え作るようにしています。また野菜の皮むきやお盆出し、食器洗いなど、それぞれ出来る事を行って頂いています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量は毎日記録し、いつでも確認出来る状態にしています。食事の時にはお茶や水、それ以外の時間には、コーヒーや紅茶、ココアなど好みに合わせて提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は一人ひとり職員と一緒に口腔ケアを行っています。うがいが出来ない方は、口腔スポンジを使用したり、口臭の気になる方にはマウスウォッシュを使用しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録をもとにしてトイレ誘導をしたり、ソワソワした様子などを見逃さないように心掛け、トイレで排泄出来るよう支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日体操やレクリエーションを行い、体を動かして頂き、食事には食物繊維の多い食材を使うようにしています。排便が滞る方は病院と相談し、下剤の調整をしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	熱めのお湯に入りたい方、ぬるいお湯が好きな方、シャワーだけにしたい方など、希望にそった支援をしています。また「もう少し後で」や「明日にしたい」などの希望にも対応しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室でゆっくり過ごす方、ホールで他の方と一緒に過ごす方などそれぞれですが、状況に合わせて眠そうな様子があれば、声掛けをし休むよう促しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報はファイリングしてをり、誰もがいつでも確認出来るようにしています。服薬前のダブルチェックや空袋チェックを行い、飲み忘れや間違いがないようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ほうきでの掃き掃除やモップ掛け、食器洗いや洗濯物畳みなど、それぞれ出来る事を行って頂き、編み物や貼り絵などを自室で楽しめる方もいます。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ予防の為、外出は控えています。季節を感じて頂けるよう桜や紅葉を見に行ったりもします。本人が希望する物は職員が代行しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で管理できる方は少なく、職員が管理してをります。少しでも持っている事で安心される方もおり、お小遣い程度は渡しています。欲しい物や必要な物は、コロナ予防の為、職員が買いに行っております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたい時に家族や友人にしたり、気軽に出来るよう対応しています。かけることが出来ない方は職員がかけ、お話し出来るよう努めています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は毎日掃除をし清潔を保っています。季節ごと、月ごとに飾り付けを行い、楽しんで頂けるよう心掛けています。温度計は何か所かに置き温度管理をしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間、食堂には、テレビの近くにソファーやテーブルがあり、1人で過ごせる場所もあれば、利用者同士で過ごせる場所もあります。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には今まで使用していた家具やテレビ、置き物などを置いて頂き、生花や造花なども好きな方は置き、家族とも相談しながら居心地の良い空間を作るようにしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室や廊下には手摺りがあり、一人ひとりに合わせ、車椅子、歩行器等を使用して頂き、安全に安心して過ごせるようにしています。お知らせやカレンダーを掲示して活用し、自立した生活が送れるようにしている。		